

1. 件名：福島第一原子力発電所における循環注水冷却・滞留水等に係る定例会
2. 日時：令和4年9月22日（木）13時30分～14時30分
3. 場所：原子力規制庁 18階会議室
4. 出席者

原子力規制庁

原子力規制部 東京電力福島第一原子力発電所事故対策室

横山係長、高木係長、小西係長、塩唐松係員

澁谷企画調査官、大辻室長補佐（テレビ会議システムによる出席）

福島第一原子力規制事務所

高松原子力運転検査官（テレビ会議システムによる出席）

東京電力ホールディングス株式会社 福島第一廃炉推進カンパニー

福島第一原子力発電所 担当5名（テレビ会議システムによる出席）

5. 要旨

- 東京電力ホールディングス株式会社（以下「東京電力」という。）から、資料に基づき、主に以下の説明があった。
 - 淡水化（R0）装置入口におけるトリチウム濃度の状況について
 - ✓ 2022年3月下旬以降、R0装置入口のトリチウム濃度が上昇傾向となっており、この要因として3号機R/B滞留水のトリチウム濃度上昇が影響している可能性があること。
 - ✓ 3号機R/B滞留水のトリチウム濃度上昇の原因は、3月16日の地震以降に発生しているPCV水位の低下事象が影響している可能性があること。
 - ✓ Cs-137については3号機R/B滞留水でトリチウムと同様の上昇が見られる一方、Sr-90に有意な変動は見られないこと。
 - 3号機原子炉格納容器内取水設備の運転開始について
 - ✓ PCVの耐震性向上に向けて、段階的にPCV水位の低下を行うことを計画しているが、10月上旬からPCV取水設備の運転を開始し、ステップ1のうち、まずS/C内包水の水質浄化を実施予定であること。
 - 1号機原子炉補機冷却系線量低減に向けた内包水サンプリング作業の再開について
 - ✓ 1号機原子炉建屋（R/B）内の高線量線源である原子炉補機冷却系（RCW）について、線量低減に向けた内包水サンプリング作業を実施すること。
 - ✓ 対象機器の系統に水素ガスが含まれる可能性があるため、事前に水素ガスの確認を行う予定であること。
- 原子力規制庁は、上記説明について確認するとともに、以下のとおりコメントした。
 - 淡水化（R0）装置入口におけるトリチウム濃度の状況について
 - ✓ R/B滞留水等のトリチウム等の濃度について継続して注視すること。
- 東京電力から、上記コメントについて了解した旨回答があった。

6. その他

資料：

- 3号機原子炉格納容器内取水設備の運転開始について
- 1号機原子炉補機冷却系線量低減に向けた内包水サンプリング作業の再開につ

いて

- 淡水化（RO）装置入口におけるトリチウム濃度の状況について
- 循環注水冷却スケジュール
- 使用済燃料プール対策スケジュール
- 燃料デブリ取り出し準備スケジュール

以上